



23

自主活動を通して、

たくましく成長する学校

荻浜小学校

今回は、荻浜小学校を紹介します。

荻浜小学校は、市の南東部に位置し牡蠣の養殖が盛んな荻浜地区をはじめ、支倉常長出帆の地としても知られる月浦など7つの区域に学区が跨る、潮の香り漂う静かな漁村にあります。児童数は、今年度の新入学生4人を加えた22人で、開校は明治6（1873）年と歴史が古く、移転と統合を繰り返しながら昭和57年に現在の桃浦地区に校舎を構えました。

荻浜小学校では、「自分に誇りをもてる」をテーマに地域の方々の協力をもらいながら教育活動を推進しており、小規模校の特性を生かしたさまざまな取り組みをしています。中でも、全児童が参加する「サマーキャンプ」は、地域の大イベントとして定着しつつあり、昨年は、夏休み直前に2泊3日の日程で行いまし



▲ 桃浦湾での遠泳大会

このキャンプでは、普段の生活ではなかなか体験できない、座禅体験や遠泳大会、釣り上げた魚を自分達で調理する料理教室などを体験し、



▲ 制作した大漁旗（釣り大会にて）

ふるさとの自然と向き合いながら、集団での自主的な活動を通して、子ども達が協力して行動することを学び、ふるさとの良さに気付かせることを目的としています。

キャンプをやり遂げた子ども達の集合写真の中に、活動の中で創意工夫しながら制作した「大漁旗」と一緒に写っている写真がありました。そこには、3日間やり遂げたという満足感と、一回り成長してたくましくなった荻小っ子達の誇らしげな笑顔があります。
ふるさとの自然を知り、みんなで協力し合って取り組んだ貴重な体験を、荻小っ子達は生涯忘れることはないでしょう。

にぎやか家族 31

北村太田沢



写真左から伶音ちゃん、優音ちゃん、綺音ちゃん

小野寺

優音ちゃん (7歳)	スケート選手
綺音ちゃん (4歳)	ケーキ屋さん
伶音ちゃん (2歳)	アンパンマン

〈両親から〉

思いやりがある、素直で元気な子どもに育ててほしいと思います。

今月の表紙から

ホウレンソウは、カロチンとビタミンC、鉄が多く含まれ、緑黄色野菜を代表するたいへん栄養価の高い健康野菜です。消化のよい野菜なので老若男女を問わず栄養補給に最適です。また、動脈硬化や肌荒れ、カゼの予防にも効果的で、根元の赤い部分には、マンガンが多く含まれ、骨の形成を促す働きがあります。

国内で出回っているものは、ほとんどが国産で、まれに中国産や台湾産などもあります。これらは日持ちがしないので、冷凍食品として扱われます。ホウレンソウは日本の野菜の代表格といえます。

今回は、桃生町倉坪地区の白石さんのハウス栽培を取材しました。約90アールのビニールハウスに、一年を通して栽培し、市内や仙台方面の市場に出荷しています。

込み、ハリがあり、葉肉が厚いホウレンソウが並んでいました。この時期は「レオナ」という品種で、今後は初夏の「アルタイル」という品種の種まきが始まり、2〜3か月後に収穫する予定です。

白石さんに、ホウレンソウ栽培について聞くと「ハウス内なので夏の作業が大変ですね。また、ハウス内の温度を保たなければ、土が病気になるので、温度調整には気を使います。消費者の皆さんに、安心して、安全な野菜を届けることができるように心がけています」と話していました。



JA いしのまき 桃生ほうれんそう部会 会長 白石 一郎 さん (桃生町倉坪)



「この運動は、行政と企業、そして市民が一体となって展開しなければ、なかなか難しいことを実感しましたが、誰でも身近にできる取り組みなので、より多くの

渡波生活学校は、「暮らしを見直そう」「環境を守ろう」「資源を大切にしよう」という3つのテーマを掲げ活動しています。昭和50（1975）年に冠婚葬祭合理化運動などを進める新生活運動として設立しました。

現在、会員数は10人で、月2回集まり、身近な暮らしの中の問題点を学びあひながら、実践活動を行っています。

主な活動は、「夏休みリフォーム教室」や「文化展バザー」で、どちらも、家庭にある物を使って再利用しています。特に、バザーは、収益金を20数年も福祉団体に寄付を続けています。

また、昨年は、レジ袋使用削減運動を展開し、市内の商店に出向き、その協賛を探したり、各種団体に呼びかけました。



方にマイバックを利用してレジ袋を削減してほしい」と代表の阿部さんは呼びかけていました。

ほかに、美化運動として、公民館や国道398号線沿いの花壇に花や葉牡丹の植栽をしています。

会員の方は、「活動を30年以上も続けられたことを誇りに思います。今後がんばって活動していきたいです」と話していました。

サークル仲間

なかま
③1

限りある資源を大切に

渡波生活学校

今回は、渡波生活学校の皆さんを紹介しします。

長寿のひけつ



②6

のんびり暮らすこと

今野 辰治さん（桃生地区小池）91歳

今回は、体を動かすことが好きな今野辰治さんを紹介しします。

桃生町太田にお住まいの今野辰治さんは、大正5（1916）年に5人兄弟の末っ子として生まれました。昭和11（1936）年には、兵隊として、現在の北朝鮮に行っていました。

終戦後は、農業をはじめいろいろな仕事に携わりましたが、最終的には、知り合いの方からの誘いもあり、北方土地改良区に就職し、29歳で結婚して、子どもにも恵まれました。

58歳で退職した後、76歳まで嘱託職員として仕事を続け、現在は、畑仕事や庭の手入れ、散歩、近所の友達とお茶飲みをするなど、毎日、楽しく過ごしています。

そんな今野さんの長寿の秘けつを聞いてみると「体を動かすこと、好きなことをやること、無理をしないこと、そして、のんびり暮らすことです。それに嫌いな食べ物はないですね」と話していました。

